

表彰先

(1) 信州エコ大賞 ・養命酒製造(株) 駒ヶ根工場 代 表 大森 勉
同 ・軽井沢サクラソウ会議 代 表 須永 久

(2) 奨 励 賞 ・NPO 法人戸隠森林植物園
ボランティアの会 代 表 水上 則男

選考理由

(1) 信州エコ大賞

〔養命酒製造(株) 駒ヶ根工場 (駒ヶ根市)〕

1972年に中央アルプスの標高800mの山麓に広大な敷地の工場を建設した養命酒製造(株)。「森林工場」をコンセプトに建設された36万㎡の敷地の7割を森林が占め、地形を活かした設計で自然と調和した工場となっている。敷地内には農業用水路が流れ、山の傾斜を利用して高い建物から低い建物に液体を流す省エネ設計が採用されている。電線や配管は全て地下共同溝に敷設されており、自然環境と景観に配慮する同社の姿勢が現れている。

同工場は年間約680トン(2016年度)の産業廃棄物を排出しているが、その約6割が生薬の成分抽出後に出る生薬残渣である。生薬残渣の一部を加工し、薬用養命酒の原料であるウコン、ケイヒなど14種類の成分が配合された飼料で育つオリジナルブランド豚「信州十四豚」用の飼料を出荷している。また、資源循環型工場を目指して残渣の堆肥化にも取り組み、堆肥を使った生薬栽培を2015年から開始し、地元の農家との協同栽培も始めている。

2005年からは、敷地内の自然環境を整備し、「養命酒健康の森」として一般開放を始め、工場見学の観光地にもなって地域に貢献している。同社は、敷地内のアカマツ林を整備し広葉樹林・針広混交林への転換を更に進める予定である。

〔軽井沢サクラソウ会議 (軽井沢町)〕

サクラソウは北海道、本州、九州の高原や原野に分布している。軽井沢は日高、阿蘇と並ぶ自生地で、盗掘被害が相次いだ。町の花にもなっている「サクラソウ」を保護するために2000年に「軽井沢サクラソウ会議」が設立された。現在は、サクラソウをシンボルに町の生物多様性を保全する趣旨の活動に範囲が広がり、結成当時20名であった会員数が現在は83名に増えている。

2010年には、サクラソウの生息地の調査を町全域に広げて実施し、265地点で生育を確認している。環境省「モニタリング1000里地調査」に参加し、軽井沢タリアセン内の植生調査を行い、地域の植物のデータを記録している。また、軽井沢の草原・湿地などの自然を紹介した本や資料の発行も行っている。

サクラソウが咲き続けるためには、町内の草原や湿地など「半自然草原」の保全・管理が重要であるとして、外来種の駆除や里山の整備にも力を入れている。

“自然保護とまちづくり学習会”などを軽井沢町と共同して開催し、軽井沢の自然環境の保全に向けて様々な活動を展開している。

(2) 奨励賞

[NPO 法人戸隠森林植物園ボランティアの会 (長野市)]

1998年に任意団体として設立され、長野県より園内にある「森林学習館」の運営協力を委託され現在に至っている。その後、同会とNPO法人やまぼうし自然学校で構成する「戸隠ふれあいの森森林整備協議会」が中部森林管理局北信森林管理署と植林及び森林整備の協定を結び継続して事業を行っている。2004年には特定非営利活動法人の認証を得た。現在の会員数は17名である。

主な活動は、5月から10月末にかけて毎週日曜日とGW・盆休み中に開催している戸隠森林植物園での「自然観察会」(2017年度は41回実施し約500人が参加)と戸隠ふれあいの森の「植樹祭」や下草刈りなどの森林整備である。

高齢化と後継者不足の課題を抱えながら、地味な活動を20年の長期にわたって継続して展開していることは特筆される。